



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第45号 2012. 4. 12

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### 梅山豚（メイシャントン）の子ブタ誕生

農場の豚舎では、現在性成熟が速く、若い日齢から精細胞の採取が可能な中国原種の梅山豚という豚に関する精細胞形成の研究が細胞工学研究室によって行なわれています。残念ながら十和田農場の豚舎には、梅山豚の純粋種を飼育するスペースがないため、農場にいる4品種の豚との交配によるF<sub>1</sub>を実験に用いることになりました。

梅山豚は、中国の太湖豚（タイフウトン）系の原種豚で、現在中国でも希少種となり輸入が難しくなったため、日本で飼育されているのは100頭前後です。世界一の多産種といわれており、畜産草地研究所では梅山豚の多産遺伝子を特定し、生産効率の向上に活用する研究が行われているようです。民間での生産は茨城県の塚原牧場<sup>1)</sup>のみで行われており、精肉の歩留（約35%）も、増体も悪い（出荷日齢は360日以上）ため、デュロックとのF<sub>1</sub>で出荷しているようです。

梅山豚（写真1）の特徴は、しゃくれた顔としわしわの皮膚、大きく垂れ下がったお腹にくびれた背中です。農場で生まれてくるF<sub>1</sub>はどのような格好をして生まれてくるのか楽しみでした。

まず、最初に生まれたのは大ヨークシャーとのF<sub>1</sub>（WM）でした（写真2）。大ヨークシャーはもともと多産系ですが、なんと20頭生まれてきました。十和田農場の最多記録を更新しました。梅山豚は黒色で4肢の先が白い四白ですが、生まれた子豚は大ヨークシャーの遺伝子を引き継ぎ、白色でした。背中や顔にうっすら黒いごま模様が入っている子豚もありました。生まれたときは普通の大ヨークシャーのような格好でしたが、成長していくうちにみるみるうちにお腹が出てきて、今ではトドのように寝ています。



写真1. 梅山豚<sup>2)</sup>



写真2. WM（体重110kg）



増体も良く、同じ日生まれたWL（大ヨークシャー♀×ランドレース♂）よりも大きく育っています。現在えは出荷体重（120 kg）にまで成長し、もうすぐお肉になるところです。

次に生まれたのはデュロックとのF<sub>1</sub>（DM）（写真3）です。真っ黒で、生まれたときはラブラドルレトリバーの子犬ようにかわいらしい姿でしたが、成長するにつれ、WMのようにお腹が出てきて、餌もがつつ食べるようになりました。性格はWMより



写真3. DM（約70kg）

小心者で、WMはすんなり移動してくれたところをDMはいつまでも足踏みしていました。そして、最近生まれたのがランドレースとのF<sub>1</sub>（LM）（写真4）です。最初に生まれたのが黒のぶち模様が入った子豚でした。しかし全頭生まれてみると、他の子豚はWMのような白色、もしくは薄い黒ごま模様でした。今まで生まれた3種の中で一番梅山豚に近い体型だと感じます。梅山豚は増体が悪いと言われていますが、LMはF<sub>1</sub>の中でも一番増体が良く、一週間前に生まれたデュロックの純粋を軽く追い抜いてしまいました。

残りはパークシャーとのF<sub>1</sub>（BM）ですが、分娩予定は6月です。パークシャーも梅山豚もどちらもしゃくれた顔と黒い体をしていますが、どんな子豚が生まれるか楽しみです。また、パークシャーも増体がよくない豚なので、梅山豚と掛け合わせることでどんな成長をするのか期待しています。

梅山豚は、サシの割合が高く、高級豚肉といわれているパークシャー種（黒豚）よりも上質で柔らかな霜降り肉だといわれています。これから出荷体重まで育った豚たちがそれぞれどんな味わいなのかも確かめてみたいと思います。



写真4. BM（約3kg）

参考：1）塚原牧場

<http://www.meishanton.com/>

2）独立行政法人 家畜改良センター

<http://www.nlbc.go.jp/index.asp>

## 八雲牧場から

### 大雪

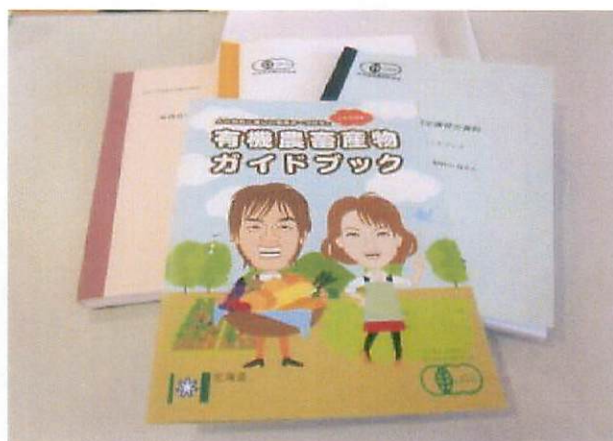
今冬は例年にない大雪でした。牛舎や倉庫、車庫などの屋根の雪下ろしはいつもであればシーズン中1回程度で済むのですが、今シーズンは2回ずつ下ろしました。3月末でもまだ積雪量が例年より50 cm多い状況です。春はまだまだ遠いようです。

### 北里八雲牛普及推進協議会実行委員会の開催

3月5日に八雲町役場の会議室において、4月に予定している第8回北里八雲牛普及推進協議会に向けた実行委員会が開催されました。本事業に参画されている農家の方々には、大学側以上に町内普及に対して意欲的に取り組む姿勢を示していただきました。各関係機関からも様々な協力を提案いただいたり、町内生産者による生産組合を立ち上げる事も約束されたりと、町内普及が少しずつではありますが確実に広がってきていることを実感しました。

### 有機認証認定講習会

3月14日にせたな町で、NPO 北海道有機認証協会主催の有機認証認定講習会が行われ、小野係長、山田主任、折目主任が受講しました。北里八雲有機牛を生産するにあたり必要な基準と、この4月27日からの改訂事項について講習がありました。改訂により、「非有機牛」と「有機牛」の接触が緩和され、管理がしやすくなります。有機畜産を目指す生産農家が有機畜産に取り組みやすい改善がなされ、有機畜産農家が増えることを期待します。



### 畔柳准教授転勤（八雲から学部へ）

八雲牧場で35年間勤務されていた畔柳准教授が、4月1日付で獣医学部へ転勤されました。距離は少々遠くなり寂しくなりますが、FSCの教員として学部と八雲牧場の連携が円滑に進むためのパイプ役となるよう、頑張ってもらいたいものです。



(編集担当：畔柳 正)